

1、園の保育目標

- ① よく考え、よくみつめる
- ② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす
- ③ 友達と元気に仲良く遊ぶ

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した
学校評価の具体的な目標や計画

- 1. 保育者育成(新任)
- 2. 乳児、1歳以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容を意識した保育環境の充実
- 3. 養護の行き届いた環境を作り上げる
- 4. 園の保育理念への保護者の理解

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育者育成(新任) 日々の保育の振り返りを丁寧に言い、対話を大切にしながらサポートする。	一年間、担任ではなく、フリーとして保育に入ること で、様々な保育者の保育を間近で見られる環境であつた。併せて、次年度に向けて、指導案や個人記録など、丁寧に指導することができた。それぞれの職員が、新人の個性に合わせて対話しやすい雰囲気を作り、安心して伸び伸びと保育ができるようにサポートしている。
2. 乳児、1歳児以上3歳未満児、3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容を意識した保育環境の充実 保育所保育指針を基に、ねらいを設定し、子どもに合わせた環境を用意する。保育者自身の学びにつなげ、保育の質の向上につなげる。	クラスだよりやドキュメンテーションで5領域を保護者にも発信することで、指針を確認することが増え、自身の学びにもつなげることができた。中でも、乳児の3つの視点、1歳以上 3 歳未満児、3 歳以上児の5領域を、改めて意識して保育をすることで、発達の特性から、緩やかに繋がっていることが理解できた。 年度末に実施している「ダイダイジュース作り」では、特性に合わせた環境をそれぞれ用意することに取り組んだ。
3. 養護の行き届いた環境を作り上げる 「子どものために」ということを一番に優先し、言葉や口調、態度や物腰に気を付け、一人ひとりの自尊心を大切に	常に「子どものために」ということを意識しながら過ごした。子どもの気持ちを汲み取り、言葉に出して確認することで、納得する姿も見られた。半面、イヤイヤで難しい部分もたくさんあり、個性を大切にしつつも、集団の中で、気持ちを尊重した保育をする難しさも感じた。

<p>4. 園の保育理念への保護者の理解 5領域から見られる育ちを伝え、より深い保育内容の可視化に努める。 また、保護者の保育に対する理解を深める。</p>	<p>年2回の保護者懇談では、進級児は、ある程度、過去に発信しているものがあるため、改めて、何を保護者に伝えたいかを、職員全員で考えた。職員が保育の中で大切にしているワードを知らせたり、5領域から見る一人ひとりの成長を、写真を使って知らせたりすることで、保育理解に繋がったと感じる。また、グループワークでは、保護者同士のつながりも深まったと感じる。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本園が保育の基盤として大切にしている、保育所保育指針の、5領域の中でも「乳児」「1歳児以上3歳児未満」「3歳児以上」を意識することで、更に子どもの発達過程、特性を知ることができた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
若手保育者の育成	保育者同士の同僚性を高めるための語り合いや研修に取り組む。
環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びや興味が深まる環境の工夫 ・園庭の植物や、虫などを育てながら、命の大切さを知らせる。
担任とフリーが共に養護の行き届いた保育をする	担任とフリー保育者が保育理念を基に、対話を大切にしながら、より良い保育に努める。
保護者同士のつながりの充実	年に2回の保護者懇談会では、園と保護者だけでなく、保護者同士の関係性が築ける内容を考え、子育ての充実にもつなげる。